2004. 10. 1

(Japanese Academy of Learning Disabilities)

日本LD学会会報　第50号

事務局：栃木県カウンセリングセンター内
〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9ムギショウビル2F　TEL.028-649-0090 FAX.649-1213
URL. http://wwwsoc.nii.ac.jp/jald/

マージナル・マン（境界人）としてのアイデンティティを持って

三鷹市立南浦小学校　きこえとことばの教室
田　中　容　子

「お宅のお子さんには、他の子とは違う手立てが必要かもしれません。」

たったこれだけのことなのに、通常の学級担任にとって、保護者に子どもの課題を告げることは高いハードルである。実際に私も通常の学級担任だった時、保護者からの強い抵抗にあい、言わない方がよかったのだろうかと、打ちのめされた気分になったことがある。

特別支援教育が動き出した現在、きっとうまく進んでいくと信じ、希望を持ってもいるが、このハードルが日常の何気ない感覚の中で越えられない限り、困難なことが多いのではないだろうか。

最近、大学時代、社会学で学んだ「マージナルマン（境界人）」のことをよく想い出す。本来の意味は、帰属集団を持たないために集団の規範になじめない弱者である。だが、マージナルマンという言葉を聞いた時、既存の価値観に縛られずに歩くことの自由さにも魅力を感じ、この立場にアイデンティティを持って強く生きることも可能なのではないかと考えたのであった。

その後、通級制の「きこえとことばの教室」からＬＤ児等の対応をするようになった私は、常に既存の考えや立場等の狭間でマージナルな位置に立ってはきた。特殊教育と通常の教育、所属する学校の職員としての活動と他校から通級してくる子への対応、そして「個性」と「障害」との間で揺れる子ども・保護者・学級担任への対応。何らかの枠に明確に帰属しないでマージナルな立場を自信を持って歩み、発言するのはとても難しく、定義通りに常に揺れていたのが事実である。

しかし、ＬＤ教育士※として働く以上、やはり定義とは異なるマージナルマンとしてのアイデンティティを持ちたいと考えている。領域の谷間を漂うのではなく、通常の教育と他の障害児教育、および教育以外の領域の知識やノウハウをを自分から求めて身につけ、既存の価値観や帰属意識を越えて歩みたいのだ。そして実態のわからないモンスターのような「普通」や「人とは違うこと」という枠からみんなが解放されるまで、マージナルな立場でいることに誇りを持っていきたい。

※８月27日の総会において「ＬＤ教育士」は、「特別支援教育士（ＬＤ・ＡＤＨＤ等）」と名称が変更されました。